

第60回 大阪国際フェスティバル2022

中之島・フェスティバルホール

おすすめの名盤

「泥棒かささぎ」を聴くならこちら。水谷彰良さんのおすすめする名盤は？

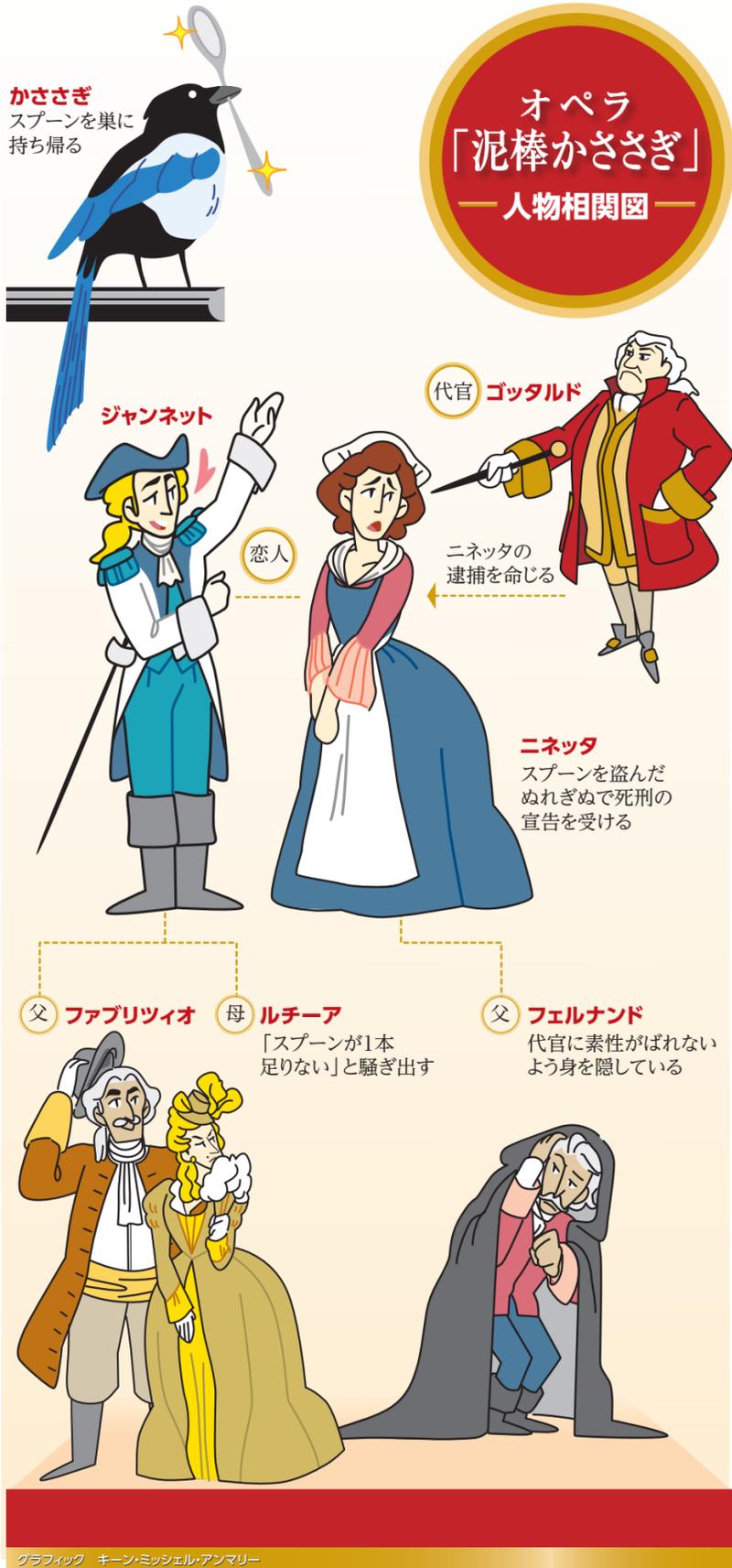
○伊ペーザロの「ロッシーニ・オペラ・フェスティバル」(2007年)のDVD(キングインターナショナル)：序曲の間に眠れぬ少女が円筒を立てるまじないをして床につき、夢の中でかささぎになってドラマを見守るといふ奇抜な舞台が高評価。演出家ダミアノ・ミキエリットがアッピアーティ賞を受賞した。狂言回しの少女(かささぎ)を演じるダンサー、サンディア・ナガラジャのアクロバット(街乗り)と巧みな表情も素晴らしい。見どころ聴きどころ満載の名演。リュウ・ジャ指揮、ボルツァーノ・トレント・ハイドン管弦楽団。



○独ヴィルトバートの「ロッシーニ音楽祭」(2009年)のライブ録音CD(Naxos)：ロッシーニ研究の第一人者でもある指揮者アルベルト・ゼツダが絶妙なテンポで牽引し、オーケストラ「ヴィルトゥオーゾ・ブルネンシス」とブルノ・クラシカ室内合唱団もはつらつとした演奏を繰り広げる。キャストは若手中心でも充実し、代官役ロレンツォ・レガッツォの精妙な表現とアジリタの技術、ニネッタ役マリア・ホセ・モレノの感情豊かな歌唱は聴き応え十分。



○「ロッシーニ・オペラ・フェスティバル」10周年(1989年)のライブ録音CD(Sony Classical)：廃盤だが、歴史的な名演としてあげたい。ロッシーニ復興の第一世代として活躍したカーティア・リッチャレリをヒロインに、ロッシーニ・テノールの草分けウィリアム・マッテウツィも出演し、フェルッチョ・フルラネットやサミュエル・レイミーもベルカントのバスとして高度な技術を駆使する。指揮者ジャンルイジ・ジェルメッティによるRAIトリノ交響楽団。



25歳の作曲 スリリング

「第60回大阪国際フェスティバル2022」(朝日新聞文化財団、朝日新聞社ほか主催)が、4月に恒例の「4オケ」公演で開幕する。8月には、ロッシーニが25歳の若さで作曲したオペラ「泥棒かささぎ」(演奏会形式)が関西で初めて全曲上演される。

あらすじ

その昔、ある街でファブリツィオ家の息子ジャンネットが兵役から帰ってきた。祝宴が開かれ、恋人のニネッタは喜びに胸をおどらせる。ニネッタがひとりになると、父フェルナンドが人目をしのいで屋敷へ現れた。軍隊でもめごとを起こして死刑宣告を受けたが、友人が逃がしてくれたという。

そこへ悪代官ゴツタルドがやってきて、ニネッタにしつこく言い寄る。脱走兵の手配書を読もうとする彼に父の正体がばれないよう、ニネッタはとっさに知恵をしばって隠し通す。

そのとき、かささぎが銀のスプーンをくわえて飛び去った。誰にも気づかれぬまま――。

「スプーンが1本足りない！」。屋敷ではジャンネットの母ルチーアが大騒ぎ。犯人捜しが始まり、ニネッタはぬれぎぬを着せられ、裁判で死刑を宣告されてしまう。

そこへ父が駆けつけて必死に訴える。「私の命とひきかえに、娘を救ってやってください」。その願いもむなしく、父は正体がばれて捕まってしまう。みなが嘆きにくれる中、ニネッタの無実はどのように証明されるのか。

盗みの真相は感動の「救出劇」

日本ロッシーニ協会会長 水谷彰良さん(寄稿)

ロッシーニは20歳で作曲した「試金石」で脚光を浴び、「セリアの理髪師」を23歳で発表した早熟の天才です。1810〜29年の20年間に、39のオペラを完成させました。22年のウィーン訪問は大旋風を巻き起こし、今年3月24〜26日にはその200年を記念して国際シンボジウム「ウィーンのロッシーニ」がウィーン国立音楽大学で開催されます。パリ・オペラ座で初演した「ウィリアム・テル(ギヨーム・テル)」を最後に37歳の若さでオペラの筆を折ったロッシーニは、美食家でも名をばせ、料理の創作にも力を注ぎま

した。日本のクリスマス定番となった牛フィレ肉の上にフォアグラとトリュフの薄切りをのせる「ロッシーニ風ステーキ」も彼の創作です。こうした話は伝説と思われがちですが、近年、パリで「トリュフと栗(マロン)」を詰めた七面鳥の自筆レシピも見つかりました。1817年に25歳で作曲した「泥棒かささぎ」は、オペラ・ブッフア(楽しい歌劇)とオペラ・セリア(シリアスな歌劇)の中間的な作品です。銀のスプーンを盗んだ疑いで死刑を宣告された小間使が、刑の執行直前に鳥(かささぎ)の仕業と分かって救われ

る物語から、ベートーベン「フィデリオ」と同じ「救出劇」に属します。序曲は誰もがどこかで耳にした名曲。明るくリズムカルな音楽と華やかな合唱で劇の幕を開け、ソリストにはヒロインのニネッタに言い寄る好色な代官や、脱走兵として追われる父フェルナンドも登場し、サスペンスの様相を呈します。父をかばい、無実のまま死刑を受け入れようとするニネッタの姿には誰もが同情するでしょう。

8月9日(火) ■オペラ「泥棒かささぎ」(演奏会形式、2021年6月5日に予定していた公演の振り替え公演)

午後2時、フェスティバルホール▽指揮：園田隆一郎、ステージング：奥村啓吾、出演：晴雅彦、福原寿美枝、小堀勇介、老田裕子、青山貴、伊藤貴之、森季子、清原邦仁、西尾岳史、片桐直樹、関西在住のソリスト陣による特別編成の合唱団、大阪交響楽団▽昨年販売した元公演のチケットで入場できるほか、3月13日から再発売。S席8500円、A席7500円ほか▽協賛：朝日放送グループホールディングス、関電工、ダイキン工業、大和ハウス工業、高砂熱学工業、竹中工務店、西原衛生工業所(レクチャーコンサートも協賛)

◇チケットはフェスティバルホール(06・6231・2221)ほかで発売

□関連企画①「泥棒かささぎ」レクチャーコンサート

6月22日(水)午後2時、ザ・フェニックスホール▽司会とお話：朝岡聡(日本ロッシーニ協会副会長)、出演：園田隆一郎(指揮者)、老田裕子、青山貴、伊藤貴之、岡本佐紀子(ピアノ伴奏)▽2500円(当日座席指定)、定員100人。3月13日発売▽申し込み：フェスティバルホール(06・6231・2221)

□関連企画②「泥棒かささぎ」リハーサル見学会

8月8日(月)午後2時半〜同5時半(予定)、フェスティバルホール▽お話：朝岡聡▽2750円(当日座席指定)、定員100人。3月14日発売▽申し込み：朝日カルチャーセンター中之島(06・6222・5224)

4月16日(土) ■4オケの4大シンフォニー2022

午後2時、フェスティバルホール▽関西フィルハーモニー管弦楽団(藤岡幸夫指揮) シューマン「交響曲第1番『春』」、大阪交響楽団(外山雄三指揮)モーツァルト「交響曲第41番『ジュピター』」、大阪フィルハーモニー交響楽団(尾高忠明指揮)チャイコフスキー「交響曲第5番」、日本センチュリー交響楽団(秋山和慶指揮)ドヴォルザーク「交響曲第9番『新世界より』」▽残席わずか▽特別協賛：日本取引所グループ(JPX)、協賛：朝日放送グループホールディングス、サントリーホールディングス、竹中工務店

9月17日(土) ■小曾根真×鈴木優人×大阪フィル ひかれあうジャズと古典—2台ピアノの午後

午後3時、フェスティバルホール▽ピアノ：小曾根真=写真左、Photo Kazuyoshi Shimomura=、指揮・ピアノ：鈴木優人=同右、©Marco Borggreve=、大阪フィルハーモニー交響楽団▽ラヴェル「ピアノ協奏曲 ト長調」、モーツァルト「2台のピアノのための協奏曲 変ホ長調」、ムソルグスキー(ラヴェル編曲)組曲「展覧会の絵」▽6月発売予定▽協賛：朝日放送グループホールディングス、竹中工務店

